科目ナンバリング	U-LAS02 10007 LJ36						
授業科目名 <英訳>	国語国文学Ⅰ Japanese Philology and Literature I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　佐野　宏		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	火5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

日本文学における代表的な古典から、とくに萬葉集を講読する。萬葉集全二十巻を巻毎に取り上げつつ、和歌を抄出して講読する。各巻の概要や部立てのあり方、歌学における萬葉歌の享受史に触れながら、日本古典研究の基礎的な知識の習得を目的とする。ゆったりと萬葉歌の鑑賞を行う予定である。
なお、今期は巻13および巻14に関説して、防人歌を中心に取り上げる。「防人は還ったか」という問いのもとに、防人歌が挽歌の変容として位置づけられるかを検討する。そして、巻15の遣新羅使らの歌群、中臣宅守と娘子の在り方が、生別と死別の境界にどのように位置づけられるかを考える。

[到達目標]

萬葉集についての基礎的な知識を習得し、和歌史研究のオーソドクスな観点と方法について説明できること。

[授業計画と内容]

1　萬葉集について
2　萬葉集の注釈書類概説
3　萬葉集の受容・研究史概説①
4　萬葉集の受容・研究史概説②
5　萬葉集の受容・研究史概説③
6　萬葉集の受容・研究史概説④
7　万葉集を読む１　巻十五を中心に修辞技法について概説しつつ講読する。
8　万葉集を読む２　巻十五を中心に修辞技法について概説しつつ講読する。
9　万葉集を読む３　巻十五を中心に修辞技法について概説しつつ講読する。
10　万葉集を読む４　巻十五を中心に修辞技法について概説しつつ講読する。
※巻15・3618～3643を講読するが、古挽歌については別途関連資料を講読することがある。
11　万葉集を読む５　遣新羅使人歌群の素材について考える。
12　万葉集を読む６　遣新羅使人歌群の主題について考える。
13　万葉集を読む７　歌群の文脈と個別和歌の内部文脈
14　万葉集を読む８　巻15はなぜ編纂されたのかを考える。確認試験。
15　フィードバック
※上記の11から14の内容は毎回の講義で少しずつ考察をしてゆくことにする。
各項目について、概説しながら読み進める。扱う項目に関係する歌数によって、回数は変動するため、テーマを拡充して講義することがある。レポート課題に直結するトピックを取り上げるが、受講生の理解度に応じて、項目を変更したり、解説が不十分と感じたときにはより多くの類例によって再説することがある。

国語国文学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

国語国文学Ⅰ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義内容を踏まえた基礎的な事項の確認試験を行う（60%）。時折、講義中に小テストを行うほか、授業への積極的な参加度（40%）を総合的に加味して評価する。

[教科書]

井手至、毛利正守 『新校注　萬葉集』（和泉書院）ISBN:978-4757604902
坂本信幸、毛利正守 『萬葉事始』（和泉書院）ISBN:978-4-87088-728-2
受講者が上記のテキストを持参しているものとして講義を行う。

[参考書等]

（参考書）
小島憲之他 『新編日本古典文学全集　萬葉集　』（小学館）ISBN:978-4096580066
佐竹昭広他 『新日本古典文学大系　萬葉集』（岩波書店）

[授業外学修（予習・復習）等]

プリントを配付するが具体的な語釈や文法事項については、各自で注釈書類、参考文献を一読しておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

木曜日４限をオフィスアワーとする。会議等で不在の場合があるので、必ず事前に確認をすること。